

令和6年度

学習シラバス



新座市立第三中学校

2 学年

各教科の1年間の学習内容や目標、評価の観点などが記載されています。

各教科は、このシラバスに基づいて学習を進めていきます。



創立40周年記念マスコットキャラクター

Sunちゃん

令和6年度

通知表の評価・評定

新学習指導要領から通知表の評価項目が変更になり、3観点で評定を決めることとなりました。学校の通知表の評定をどのような仕組みで決めているかを説明します。通知表をご覧になる際の参考にしていただければ幸いです。

通知表の観点別評価について

各教科には、評価をするための3つの観点が決められています。観点ごとに、生徒の学習状況（主体的に学習に取り組む態度、忘れ物など）、テストの結果、提出物の内容、作品、授業中の発言内容、自己評価シートの内容などを参考に、ABCの三段階で評価します。

観点別評価項目

各教科の「観点別評価項目」及び「評価の方法・参考とする資料」は以下のようになっています。

	観点別評価項目	評価方法・参考とする資料
国語	知識・技能	定期テスト、小テスト、書写の技能、暗唱、ワークの取り組みなど
	思考・判断・表現	授業中の言語活動（書く、読む、話す、聞く）の活動内容、定期テスト、まとめレポートなど
	主体的に学習に取り組む態度	取り組みの様子、発表や課題の内容、レポートによる理解度の深まりなど
社会	知識・技能	定期テスト、単元テスト、レポート、授業への取り組みなど
	思考・判断・表現	定期テスト、単元テスト、レポート、授業への取り組みなど
	主体的に学習に取り組む態度	定期テスト、単元テスト、レポート、授業への取り組みなど
数学	知識・技能	定期テスト、単元別テスト、提出物の内容など
	思考・判断・表現	定期テスト、単元別テスト、提出物の内容など
	主体的に学習に取り組む態度	取り組みの様子、定期テスト、単元別テスト、提出物の内容など
理科	知識・技能	技能テスト、ノートやレポートの内容、定期テストなど
	思考・判断・表現	口頭テスト、ノートやレポートの内容、定期テストなど
	主体的に学習に取り組む態度	授業の取り組みの様子、ノートやレポートの内容、定期テストなど
音楽	知識・技能	ワークシートの内容、鑑賞レポートの内容、定期テスト、実技テストなど
	思考・判断・表現	ワークシートの内容、鑑賞レポートの内容、定期テストなど
	主体的に学習に取り組む態度	授業の取り組みの様子、話し合い活動の様子、ワークシートの内容など
美術	知識・技能	取り組みの様子、作品（作成過程、完成）の様子、発言の内容など
	思考・判断・表現	取り組みの様子、鑑賞の内容、記述の内容、スケッチの内容など
	主体的に学習に取り組む態度	発言の内容、取り組みの様子、記録、スケッチや振り返りシートの内容など
保健 体育	知識・技能	運動技能、単元ごとの技能の到達度や記録値、動きを獲得している姿 定期テストの内容など
	思考・判断・表現	学習カード内容、活動内容（課題解決の取り組み） 設定された活動を自分なりに工夫し行動や言葉として表出される姿勢など
	主体的に学習に取り組む態度	授業の用具の準備・片付けをしっかりと行っているか。 授業への課題解決に向けて進んで取り組もうとする姿勢
技術 家庭	知識・技能	テスト（ペーパーテスト、実技テスト）、製作品（製作過程、完成）の様子、発言やレポートの内容など
	思考・判断・表現	学習ノートや発言、レポートの内容、作業計画表、記録カード、テスト（ペーパーテスト、実技テスト）など
	主体的に学習に取り組む態度	授業の取り組みの様子、学習ノートや振り返りカード、作業記録カード、レポートの内容など
外国語	知識・技能	パフォーマンステスト、ワークシートの内容、文法・発音の正確さ、定期テストなど
	思考・判断・表現	パフォーマンステスト、ワークシートの内容、発言内容の適切さ、定期テストなど
	主体的に学習に取り組む態度	取り組みの様子、パフォーマンステスト、振り返りカード・ワークシート・提出物の内容、表現の工夫など

観点別評価ABCの決め方

次の観点別評価を三段階で行うときのA、B、Cの評価判定基準について説明します。単元ごとに観点別評価を行い、その評価の平均値により各学期の観点別評価を算出しています。教科ごとに多少異なりますが、前ページで述べた「評価の方法・参考とする資料」を参考に点数化して、ABCを決定しています。おおよその目安は以下のとおりです。

評価の点数化	各単元の評価を基にして 出す平均値の範囲	評価
A → 3	平均値 > 2.5	A
B → 2	2.5 ≥ 平均値 ≥ 1.5	B
C → 1	1.5 > 平均値	C

A : 十分満足できる状況

B : おおむね満足できる状況

C : 努力を要する状況

通知表 教科の評定について

以下では、評価の組み合わせによる評定の基準を示します。評定は、観点別評価の結果を総括したもので、3個のABCの組合せによって決められます。

観点別評価から評定の決め方

観点別評価の組み合わせから決定する評定は、以下の通りになります。学校で定めた一律の組み合わせになります。あくまで評価の組み合わせで評定が決まるので、評価の順番によって評定が変わることはありません。

【学期末・学年末の評価・評定一覧】

評価の組み合わせ	評定
AAA	5
AAB	4
ABB BBB BBC	3
BCC	2
CCC	1

※新学習指導要領、国立教育政策研究所の資料より3観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）が相互に関わっているため、**AとCは混在しません。**

第2学年 国語の学習について

◎教科の目標

- ・基礎的な学力の定着を図る。
- ・言語活動の充実を図り、日常生活で生かせる国語を身に付ける。

◎生徒のみなさんがんばってほしいこと

- ・丁寧な日本語を話したり書いたりすること。
- ・正しく聞き取ったり、理解したりすること。
- ・主語、述語の整った文を書くこと。(話し言葉と書き言葉の違いなど。)
- ・漢字小テストの取り組みをしっかりと行い、漢字を正しく読み、書けるようにすること。

◎学習内容

1 学期	2 学期	3 学期
<p>1. 広がる学びへ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見えないだけ ・アイスプラネット ・枕草子 ・多様な方法で情報を集めよう <p>漢字1 熟語の構成 練習 問いを立てながら聞く</p> <p>2. 多様な視点から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クマゼミ増加の原因を探る ・メディアを比べよう <p>練習 思考のレッスン1・思考の視覚化 表現 魅力的な提案をしよう 文法への扉1 単語をどう分ける？</p> <p>3. 言葉と向き合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短歌と親しむ ・短歌を味わう ・言葉の力 <p>言語 言葉を比べよう 言葉1 類義語・対義語・多義語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書を楽しむ ・星の王子さま ・読書案内 ・硬筆 	<p>4. 人間のきずな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盆土産 ・字のない葉書 ・表現を工夫して書こう <p>言葉2 敬語 漢字2 同じ訓・同じ音持つ漢字</p> <p>5. 論理を捉えて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モアイは語る ・根拠の適切さを考えて書こう ・月夜の浜辺 <p>表現 立場を尊重して話し合おう 練習 思考のレッスン2・根拠の吟味</p> <p>6. いにしえの心を訪ねる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「扇の的」—平家物語 ・「仁和寺にある法師」—徒然草 ・漢詩の風景 <p>練習 人物の特徴をとらえて論じよう</p> <p>7. 価値を語る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・君は「最後の晩餐」を知っているか <p>表現 魅力を効果的に伝えよう 文法への扉2 用言の活用 走る 走らない 走ろうよ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き初め 	<p>8. 表現を見つめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・走れメロス ・木 <p>文法への扉3 付属語 一字違いで大違い 表現 構成や展開を工夫して書こう</p> <p>言葉3 話し言葉と書き言葉 漢字3 送り仮名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語の学びを振り返ろう ・硬筆 ・百人一首
<p>観点</p> <p>1. 主体的に学習に取り組む態度 取り組みの様子、発表、課題の内容、まとめレポートによる理解度の深まりなど。</p> <p>2. 思考・判断・表現 (話す・聞く) 話し合い、スピーチ、聞き取りテスト、討論会、ビブリオバトルなど (書く) 意見文、手紙、物語文など様々な文章を書く能力。ノートの取り方やまとめ方。 定期試験の記述問題など。 (読む) 作品の理解(読み取り)、定期試験の文章問題など。</p> <p>3. 知識・技能 漢字・語句の知識理解、文法の理解、書写の技能、漢字テスト、暗唱など。定期試験の記述問題など。</p> <p>観点別評価 【A・B・C】の3段階 A：おおむね8割以上の到達度 B：おおむね4割以上の到達度 C：おおむね4割未満の到達度</p>		

第2学年 社会科の学習（シラバス）

◎社会科の目標

・広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会に形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

◎生徒にがんばってほしいこと

地理的分野では、「日本」についての学習をします。大まかには2つに分かれます。1つは、「世界の中で『日本』はどのような国なのか」ということを調べます。2つめは、**日本各地の地域**について調べます。

歴史的分野では、「ヨーロッパ人との出会い」（1550年代）から「日清・日露戦争」の時代（1910年代）までの学習をします。

学習の流れとしては、1学期は、地理「日本のさまざまな地域」から始めます。まずは地理的分野を最後まで進め、2学期後半には、歴史に入り、「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」を行います。

社会科は、暗記教科などと言われることがありますが、本来は自分の考え方を鍛える教科です。昨年に引き続き、教科書・地図帳、資料集を活用する力をつけてほしいと考えています。そして、地理的事象や歴史の中の事柄について「なぜそのようになったのか」「資料からどのような特徴がみられるか」など授業で学んだことについて、自分の考えをまとめながら勉強してほしいと思います。

◎学習内容

<p style="text-align: center;">【1学期】(地理的分野)</p> <p>第3部 日本のさまざまな地域</p> <p>第1章 身近な地域の調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査テーマを決めよう ・調査方法を考えよう ・調査テーマから仮説を設定しよう ・「新座」を活用して地域の調査をしよう ・調査結果を発表しよう <p>第2章 日本の地域的特色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山がちな日本の地形 ・川が作る地形と海岸や海洋の特色 ・日本の気候 ・日本のさまざまな自然災害 ・自然災害に対する備え ・日本の人口 ・日本の資源・エネルギーと電力 ・日本の農業・林業・漁業とその変化 ・日本の工業とその変化 ・日本の商業・サービス業 ・日本の交通網・通信網 ・さまざまな地域区分 <p>第3章 日本の諸地域</p> <p>①九州地方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州地方の自然環境 ・火山と共にある九州の人々の生活 ・自然を生かした九州地方の農業 ・都市や農業の発展と自然環境 ・南西諸島の自然と人々の生活や産業 <p>②中国・四国地方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国・四国地方の自然環境 ・交通網の整備と人々の生活の変化 ・瀬戸内海の内海と工業の発展 ・交通網を生かして発展する農業 ・人々を呼び寄せる地域の取り組み <p>③近畿地方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近畿地方の自然環境 ・琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏 ・阪神工業地帯と環境問題への取り組み ・古都京都・奈良と歴史的景観の保全 ・環境に配慮した林業と漁業 	<p>④中部地方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中部地方の自然環境 ・中京工業地帯の発展と名古屋大都市圏 ・東海で発展するさまざまな産業 ・内陸にある中央高地の産業の移り変わり ・雪を生かした北陸の産業 <p style="text-align: center;">【2学期】(地理的分野)</p> <p>⑤関東地方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関東地方の自然環境 ・多くの人々が集まる首都・東京 ・東京大都市圏の過密問題とその対策 ・人口の集中と第三次産業の発達 ・臨海部から内陸部へ移りゆく工場 ・大都市周辺の農業と山間部の過疎問題 <p>⑥東北地方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北地方の自然環境 ・伝統行事と生活・文化の変化 ・稲作と畑作に対する人々の工夫や努力 ・果樹栽培と水産業における人々の工夫や努力 ・工業の発展と人々の生活の変化 <p>⑦北海道地方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道地方の自然環境 ・雪と共にある北海道の人々の生活 ・厳しい自然環境を克服してきた稲作 ・自然の恵みを生かす畑作や酪農、漁業 ・北国の自然を生かした観光業 <p>第4部 第1章 地域の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を把握しよう ・地域をとらえよう ・課題の要因を考察しよう ・課題の解決に向けて構想しよう ・構想の成果を発信しよう <p style="text-align: center;">(歴史的分野)</p> <p>第4章 近世の日本</p> <p>第1章 ヨーロッパ人との出会いと全国統一</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中世ヨーロッパとイスラム世界 ・ルネサンスと宗教改革 ・ヨーロッパ世界の拡大 ・ヨーロッパ人との出会い 	<ul style="list-style-type: none"> ・織田信長・豊臣秀吉による統一事業 ・兵農分離と秀吉の対外政策 ・桃山文化 <p>第2章 江戸幕府の成立と鎖国</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の成立と支配の仕組み ・さまざまな身分と暮らし ・貿易の振興から鎖国へ ・鎖国下の対外政策 ・琉球王国やアイヌ民族との関係 <p>第3章 産業の発達と幕府政治の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業や諸産業の発達 ・交通路の整備と都市の繁栄 ・幕府政治の安定と元禄文化 ・享保の改革と社会の変化 ・田沼の政治と寛政の改革 ・新しい学問と化政文化 ・外国船の出現と天保の改革 <p style="text-align: center;">【3学期】(歴史的分野)</p> <p>第5章 開国と近代日本の歩み</p> <p>第1章 欧米における近代化の進展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イギリスとアメリカの革命 ・フランス革命 ・ヨーロッパにおける国民意識の高まり ・ロシアの拡大とアメリカの発展 ・産業革命と資本主義 <p>第2章 欧米の進出と日本の開国</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米のアジア侵略 ・開国と不平等条約 ・開国後の政治と経済 ・江戸幕府の滅亡 <p>第3章 明治維新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新政府の成立 ・明治維新の三大改革 ・富国強兵と文明開化 ・近代的な国際関係 ・国境と国土の確定 ・領土をめぐる問題の背景 ・自由民権運動の高まり ・立憲制国家の成立 <p>第4章 日清・日露戦争と近代産業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米列強の侵略と条約改正 ・日清戦争 ・日露戦争 ・韓国と中国 ・産業革命の進展 ・近代文化の形成
---	---	--

◎評価について

- 1 「主体的に学習に取り組む態度」の評価
 - (1)授業規律 ①チャイム着席 ②授業道具の用意 ③授業態度 (2)授業中の発言、発表の内容
 - (3)レポート・ファイル(ノート)・ワーク等の内容…学期1回程度 (4)定期テスト・単元テストの結果など
- 2 「社会的な思考・判断・表現」の評価
 - (1)定期テスト・単元テストの結果
 - (2)レポート・ファイル(ノート)・ワーク等の内容…学期1回程度
 - (3)授業中の発言・発表内容など
- 3 「社会的事象についての知識・技能」の評価
 - (1)レポート・ファイル(ノート)・ワーク等の内容…学期1回程度 (2)定期テスト・単元テストの結果
 - (3)授業中の発言・発表内容など
- 4 評定について

上記の1～3の観点別評価を総合して評定を出す

第2学年 数学科の学習（シラバス）

◎数学科の目標 （生徒像）

- 積極的に授業に参加できる生徒
- 計算やグラフ、作図や証明が正確に確実にできる生徒
- しっかり筋道を立てて考えることができる生徒
- 最後まであきらめず、粘り強く考えることができる生徒
- 他人の考え方をしっかり聞き、互いに協力できる生徒

◎生徒に頑張ってもらいたいこと

「計算さえできれば、数学の勉強なんていらんのではないか」という言葉をよく聞きます。確かに身の回りの生活の中で、難しい計算式や図形の証明などを使う場面はないと思います。しかし、数学は物事を論理的にとらえたり、順序よく考えていくための考え方を養うためにとても大切な勉強です。社会に出て仕事を能率よく、正確にすすめるための力を養うためにも数学の学習は重要であるといえます。また、粘り強く考え、答えを導き出した時の喜びや充実感というのは、他の教科にない数学の楽しみだと思います。基礎的・基本的なことをしっかり身につければ、誰でも数学の楽しさに気づくはずですよ。

◎学習内容

1 学期	2 学期	3 学期
1 章 文字式を使って説明しよう <ul style="list-style-type: none"> • 式の計算 • 文字式の利用 2 章 方程式を使用して問題を解決しよう <ul style="list-style-type: none"> • 連立方程式とその解き方 • 連立方程式の利用 	3 章 関数を利用して問題を解決しよう <ul style="list-style-type: none"> • 1 次関数 • 1 次関数の性質と調べ方 • 2 元 1 次方程式と 1 次関数 • 1 次関数の利用 4 章 図形の性質の調べ方を考えよう <ul style="list-style-type: none"> • 説明のしくみ • 平行線と角 • 合同な図形 	5 章 図形の性質を見つけて証明しよう <ul style="list-style-type: none"> • 三角形 • 平行四辺形 6 章 起こりやすさをとらえて説明しよう <ul style="list-style-type: none"> • 確率 • 確率による説明 7 章 データを比較して判断しよう <ul style="list-style-type: none"> • 四分位範囲と箱ひげ図

◎評価・評定

（1）観点別評価について		（2）評価について
①知識・技能	◇各領域で扱う基本的な概念や定理・法則また、用語の意味を理解している ◇いろいろな計算問題や図形の基本的な問題が解ける	授業の取組み、小テスト・単元テスト・期末テスト等、提出物（授業ノート、問題集、宿題、振り返りシートなど）等を各観点について総合的に判断する。 5：十分満足できるもののうち、特に程度が高い 4：十分満足できる 3：おおむね満足できる 2：努力を要する 1：一層努力を要する
②思考・判断・表現	◇多様な考えで問題を解こうとする ◇既習事項を活用して関連付け問題を解くことができる	
③主体的に学習に取り組む態度	◇他の観点を定着させるため、粘り強い取り組みを行い、自らの学習を調整しようとしている ◇提出物を期限に忘れずに提出し、授業道具を忘れない	

第2学年 理科シラバス

○ 教科の目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

観点	育成を目指す資質・能力
知識及び技能	・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解、 ・科学的に探究するために必要な観察・実験等の技能
思考力、判断力、表現力等	・科学的に探究する力
学びに向かう力、人間性等	・科学的に探究しようとする態度

○ 学習内容

理科A	理科B
単元1 化学変化と原子・分子 1章 物質の成り立ち 2章 いろいろな化学変化 3章 化学変化と熱の出入り 4章 化学変化と物質の質量	単元2 生物の体のつくりとはたらき 1章 生物をつくる細胞 2章 植物の体のつくりとはたらき 3章 動物の体のつくりとはたらき
単元4 気象のしくみと天気の変化 1章 気象観測 2章 気圧と風 3章 天気の変化 4章 日本の気象	単元3 電流とその利用 1章 電流と回路 2章 電流と磁界 3章 電流の正体

※本校では、「理科A」・「理科B」の2つに分け、2分野並行型で授業を進めます。

令和6年度 第2学年 音楽科の学習（シラバス）

◎音楽科の目標 (生徒像)

- ・授業を通して音楽の楽しさを体感し、音楽への興味・関心を持つ
- ・音楽の楽しさや美しさを感じ、表現する技術を身につけ、自分の音楽を表現しよう
- ・様々な音楽に親しもう

◎生徒に頑張ってほしいこと

- ・授業を真剣に受ける姿勢
- ・歌唱や合唱での発声法、基礎的な技術力
- ・積極的に工夫しながら作っていく創作活動への姿勢
- ・自ら楽しみ味わう鑑賞の態度
- ・表現や鑑賞に必要な音楽の基礎的な知識・理解

◎学習内容

1 学 期	2 学 期	3 学 期
<p>○オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・級友とともに歌う喜びを味わい、音楽学習への意欲・態度を育てる 「校歌」「翼をください」他 <p>○創作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや意図を持ってリズムや旋律を創作しよう 「リズムゲーム」 「My Melody」 「打楽器のための小品」 <p>○オーケストラの響き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽や楽器の特徴を捉え鑑賞する能力を高める。 「交響曲第5番ハ短調」 	<p>○合唱の喜び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内合唱祭への取り組みを通し、表現力を高め、合唱を愛好する心情を育てる。 「クラス曲」 <p>○パイプオルガンの響き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽や楽器の特徴を捉え鑑賞する能力を高める。 「フーガ短調」 <p>○詩と旋律</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩と音楽が一体となった美しさを感じ取って表現する。 「荒城の月」「夏の思い出」 <p>○総合芸術の楽しみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽だけでなく、美術、舞踊、文学、演劇など様々な要素が結びついた芸術について知る。 「アイーダ」 	<p>○ギターに親しもう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギターの基本的な技能を修得する ・楽器の特色や構造を理解する。 「カントリーロード」ほか <p>○日本の伝統音楽に親しもう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雅楽を通して日本古来の音楽を味わう。 雅楽「越天楽」 <p>○歌唱表現を工夫しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲想の変化を感じ取り表現する。 「サンタルチア」 <p>○世界の諸民族の音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の多様な音楽について知り、様々な音楽への興味関心を高める。

◎評価・評定について

・評定

実技テスト、筆記テスト、鑑賞レポート、提出物、授業観察等をもとに、総合的に評価します

・観点別評価

〈知識・技能〉	授業観察、実技テスト、筆記テスト、ワークシート、鑑賞レポート等
〈思考・判断・表現〉	授業観察、筆記テスト、ワークシート、鑑賞レポート等
〈主体的に学習に取り組む態度〉	授業観察、ワークシート、鑑賞レポート、自己評価カード

新座座市立第三中学校 令和6年度 第2学年 美術科 シラバス

1. 教科の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2. 年間計画

学期	題 材 名	学 習 内 容
1	風景が語るもの	身近な風景を表すことに関心をもち、主体的に取り組み、身近な風景から感じ取ったよさや美しさをから表現の構想を練る。
	自分のまわりにある形	形の美しさに関心をもち、主体的に取り組み、使う目的や用途から発想し、美しい作品を構想する。
2	ゴッホと自画像	ゴッホとその作品に関心をもち、主体的に鑑賞し、自画像に込めたゴッホの心情や表現の工夫を考える。
	自分と向き合う	自分らしさを表すことに関心をもち、主体的に取り組み、自分自身と向き合うことから表現の構想を練る。
	ルネサンス、人間の発見	ルネサンスの美術に興味をもち、主体的に鑑賞し、ルネサンス美術の造形的なよさや美しさを感じ取り、見方や感じ方を深める。
3	ポスターで伝える	わかりやすく伝えるデザインに関心をもち、主体的に表現し、伝えたい内容や相手に合ったポスターを考える。

3. 評価の観点 A：「十分満足できる」 B：「おおむね満足できる」 C：「努力をようする」

評価の観点	観点の内容	評価の方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 対象や自称を捉える造形的な視点について理解している。 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。 	行動観察・対話・表現・作品
思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	行動観察・対話・表現・記述・スケッチ
主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現活動に取り組もうとしている。	行動観察・対話・表現・記録・スケッチ・自己評価表

第2学年 教科名（保健体育）の学習について（シラバス）

■教科の目標

- ・運動に親しみ、主体的に学習に取り組む生徒
- ・健康や安全に留意して、健康の増進と体力向上に努めることのできる生徒

◎生徒にがんばってほしいこと

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上に努める ・集団としての学習規律を守る ・課題を発見し、主体的に学習に取り組める ・苦手なことや嫌いな種目でも進んで取り組める ・係などの分担された役割を果たせる |
|--|

◎学習内容

1 学期	2 学期	3 学期
<ul style="list-style-type: none"> ○体づくり運動 ○体育理論 ○陸上競技（走り幅跳び） ○器械運動（跳び箱運動） ○水泳 ○新体力テスト ○保健 	<ul style="list-style-type: none"> ○体づくり運動 ○ダンス ○球技 (バレーボール・ソフトボール) ○陸上競技（長距離走） ○体育祭の取り組み ○保健 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育理論 ○柔道 ○球技 (サッカー・バスケットボール) ○保健

◎評価について

評価の観点は、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度、の3観点とする。

知識・技能	運動技能、単元ごとの技能の到達度や記録値、動きを獲得している姿 定期テスト、単元別テスト、学習カードの内容など
思考・判断・表現	学習カード内容、活動内容（課題解決の取り組み）、設定された活動を 自分なりに工夫し行動や言葉として表出される姿勢など
主体的に学習に取り組む態度	授業の用具の準備・片付けをしっかりと行っているか。 授業への課題解決に向けて進んで取り組もうとする姿勢

技術・家庭科（技術分野）シラバス

技術・家庭科で目指すこと

☆ 技術・家庭科の目標 ☆

見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を身に付けることをねらいとしています。

☆ 技術分野の目標 ☆

技術の見方・考え方を働かせ、技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を身に付けることをねらいとしています。

☆ 技術・家庭科の授業でどんな学力をつけるのか ☆

- 生活と技術についての基礎的な知識や技能を身に付ける。
- 生活や社会の中から問題を見つけ、解決策を考え、その実践の評価・改善をするなど、課題を解決する力を身に付ける。
- 将来にわたって生活を工夫したり、創造したりしようとする気持ちを身に付ける。

3年間で学習する内容【1、2年生】 ()内の数字は授業時数

第一学年	生活や社会における技術の役割 (3)	B 生物育成の技術 (13)	A 材料と加工の技術 (19)
第二学年	D 情報の技術 (デジタル化による情報処理のしくみ) (16)	C エネルギー変換に関する技術 (照明機器の製作) (19)	
第三学年	D 情報の技術 (プログラムによる計測・制御、双方向性のあるコンテンツのプログラミング) (17.5)		

授業の約束事

<p>☆ 持ち物 ☆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書 (技術・家庭 技術分野) ・筆記用具、技術授業ファイル ・その他、授業で指示されたもの <p>※ 教科書は3年間使用します。ノート兼用のプリント、ファイルを配布します。</p>	<p>☆ その他 ☆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術室での授業はジャージ (上下) で受ける。パソコン室での授業は制服。(学校のルールに準じる) ・忘れ物をしない。 ・話はしっかり聞く
--	--

評価の観点・方法

技術・家庭科は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点をそれぞれA B Cの三段階で評価をします。

① 知識・技能

テスト（ペーパーテスト、実技テスト）、製作品（製作過程、完成）の様子、発言やレポートの内容などを材料に評価します。

基本的な知識が理解され、それを使った基礎的な技術が身についているかを評価します。

② 思考・判断・表現

学習ノートや発言、レポート（ワークシート、技家クラスルーム等）の内容、作業計画表や記録カードの内容、テスト（ペーパーテスト、実技テスト）などを材料に評価します。

技術の見方・考え方を働かせて、問題を見だし、解決できる力について評価します。

③ 主体的に学習に取り組む態度

授業の取り組みの様子、学習ノートや振り返りカード、作業記録カードの内容、レポート（ワークシート、技家クラスルーム等）の内容などを材料に多面的に評価します。

自分なりの考え方で解決策を考えたり、その実践を振り返りより、良いものになるよう改善・修正しようとしたりする態度について評価します。

以上の3つの観点を総合し、5段階で評定します。

☆ 各学年での授業・テスト ☆

◎ 1、2年生

前後期制で技術分野、家庭分野を週2時間ずつ行います。定期テストは2学期中間期（10月頃）と学年末にそれぞれの分野の内容の100点満点のテストを行います。通知表の評定は2学期末に前期の分野、3学期末に後期の分野を5段階で評定します。観点についても同様に3段階で評価します。なお、学年評定については両分野を総合した評価・評定を出します。

◎ 3年生

技術分野と家庭分野で週に1時間なので、隔週で分野を入れ替えて交互に学習します。その他は昨年度と同様に、定期テストは各学期末、配点は技術分野50点、家庭分野50点です。通知表の評定は技術分野と家庭分野を合わせて5段階、観点についても同様に3段階で評価します。

技術・家庭科（家庭分野）シラバス

技術・家庭科で目指すこと

☆ 技術・家庭科の目標 ☆

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を身につけることをねらいとしています。

☆ 家庭分野の目標 ☆

- 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な知識と技能を身につける。
- 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を見通して課題を解決する力を身につける。
- 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身につける。

☆ 技術・家庭科の授業でどんな学力をつけるのか ☆

- 生活と技術についての基礎的な知識や技能を身につける。
- 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を身につける。
- よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身につける。

3年間で学習する内容

第一学年	B 衣食住の生活 (4) 衣服の洗濯と手入れ (5) 生活を豊かにするための布を用いた制作 (6) 住居の機能と安全な住まい方		
第二学年	A 家族・家庭生活 (1) 自分の成長と家族・家庭生活	B 衣食住の生活 (1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴 (2) 中学生に必要な栄養を満たす食事 (3) 日常食の調理と地域の食文化	C 消費生活と環境 (1) 金銭の管理と購入 (2) 消費者の権利と責任
第三学年	A 家族・家庭生活 (1) 自分の成長と家族・家庭生活 (2) 幼児の生活と家族 (3) 家族・家庭や地域との関わり		

授業の約束事

<p>☆ 持ち物 ☆</p> <ul style="list-style-type: none">・教科書（技術・家庭 家庭分野）・ワーク・A4ノート <p>※ 教科書は3年間使用します。</p>	<p>☆ その他 ☆</p> <ul style="list-style-type: none">・実習（調理・被服）の授業はジャージ（上下）で受ける。・いつもの持ち物以外に、裁縫道具や調理実習の身支度など、必要な時にはその都度連絡します。・1週間に2時間（3年生は2週間に1時間）しかない授業です。集中してしっかり話を聞き、意欲的に取り組みましょう。
--	--

評価の観点・方法

技術・家庭科は、「主体的に学習に取り組む態度」「思考・判断・表現」「知識・技能」の3つの観点をそれぞれA B Cの三段階で評価をします。

① 知識・技能

【評価方法】テスト（ペーパーテスト・実技テスト）、製作品（製作過程・完成）の様子
発言やレポートの内容などを材料に評価します。

基礎的な知識が理解され、それを使った基礎的な技術が身についているかを評価します。

② 思考・判断・表現

【評価方法】学習ノートや発言、レポート（ワークシート、技家ルーム等）の内容、作業計画表や記録カードの内容、テスト（ペーパーテスト・実技テスト）などを材料に評価します。生活の見方・考え方を働かせて、問題を見だし、解決できる力について評価します。

③ 主体的に取り組む態度

【評価方法】授業の取り組みの様子、学習ノートや振り返りカード、作業記録カードの内容
レポート（ワークシート・技家クラスルーム等）の内容などを材料に多面的に評価
します。自分なりの考え方で解決策を考えたり、その実践を振り返り、より良いものになるよう改善・修正しようとしたりする態度について評価します。

以上の3つの観点を総合し、5段階で評定します。

☆ 各学年での授業・テスト ☆

◎ 1、2年生

技術・家庭科の授業は、前期・後期の2期制です。週1回2時間続きで行います。前期の定期テストは2学期中間、後期のテストは学年末に行います。（配点は100点満点）通知表の評定は、前期は2学期末、後期は3学期末に行います。学年末の評定は技術分野と家庭分野を合わせて、5段階で評定します。観点についても同様です。

◎ 3年生

技術分野と家庭分野を1週間おきに（隔週で）交互に行います。

（年間17.5時間ずつしかありません）

定期テストは各学期末に行います。配点は技術分野50点、家庭分野50点です。通知表の評定は技術分野と家庭分野を合わせて、5段階で評定します。観点についても同様です。

第2学年 【英語科】 シラバス

2学年の目標

英語学習を通して言語や文化への関心を高め、自ら学ぶ学習態度をつける。聞くこと、話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養うと同時に積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成と異文化を理解する広い視野を身につける。

第1学年の学習を基礎として、言語の使用場面や言語の働きを更に広げた言語活動を行う。第1学年における学習内容を繰り返して指導し定着を図るとともに、事実関係を伝えたり、物事について判断したりした内容などの中からコミュニケーションを図れるような話題を取り上げる。

評価の観点・方法

【評価の観点】

- (1) 知識および技能
- (2) 思考力、判断力、表現力等
- (3) 学びに向かう力、人間性等

【評価の方法】

- (1) 言語活動への態度・意欲
(観察・自己評価)
- (2) 定期テスト・小テスト・会話テスト等の結果
- (3) 授業中の発言・コミュニケーションへの積極性
- (4) 言語活動中の発話内容(観察法)
- (5) ノートなどの提出物の内容、忘れ物、授業態度

特色ある学習方法

- 1) 英語学習への興味付けをする。(英語の歌・英検・スピーチコンテスト・基礎英語の情報提供)
- (2) 基礎・基本の定着を目指し、チャイム着席・忘れ物点検を毎時間行う。聞いたり、話したりする力を伸ばす。
- (3) 積極的なコミュニケーション能力を高めるために、振り返りシートを用い、ビンゴや暗唱、スキット作成などに力を入れる。

	学習すること	学習のねらい
4	オリエンテーション Classroom English 1年次の復習(動詞の過去形)	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生の目標の確認、授業規律について。 ・教室で使われる英語を随時追加し、積極的に英語で話せるようになる。
	Program 1 Start of a New School Year	<ul style="list-style-type: none"> ・予定や計画などを言えるようにする。 ・接続詞(when)を使い、いつ何をするのか説明できるようにする。
5	Program 2 Leave Only Footprints	<ul style="list-style-type: none"> ・義務や命令について言えるようにする。 ・必要性について言えるようにする。 ・自分の考えを言えるようにする。
6	Program 3 Taste of Culture	<ul style="list-style-type: none"> ・to不定詞の名詞的用法を用いて、自分のしたいことが言えるようにする。 ・to不定詞の副詞的用法を用いて、行動の目的を言えるようにする。 ・to不定詞の形容詞的用法を用いて、何をするためのものか言えるようにする。
7	Program 4 Gon, the Little Fox	<ul style="list-style-type: none"> ・物語について自分の考えを伝えるために、『ごんぎつね』の物語を読んで、概要や登場人物の心情を捉えたり、思ったことについて書いたりすることができる。
9	Program 5 High-Tech Nature	<ul style="list-style-type: none"> ・比較級を用いて、2つのものを比べて表現できるようにする。 ・最上級を用いて、もっとも程度が高いものについて説明できるようにする。 ・同等比較(as~as...)を用いて、同じ程度のものについて説明できるようにする。
10	Program 6 Work Experience	<ul style="list-style-type: none"> ・やり方を知っているとと言えるようにする。 ・登場人物や友だちの様子について、言えるようにする。 ・登場人物や自分がしてほしいことについて、言えるようにする。
11	Program 7 Live Life in True Harmony	<ul style="list-style-type: none"> ・受け身を用いて、されたり、してもらったりすることについて、言えるようにする。 ・受け身を用いて、誰かから何かされたり、してもらったりすることについて、言えるようにする。
12	Program 8 Friendship across Time and Borders	<ul style="list-style-type: none"> ・トルコと日本の間に起きたことを知り、その後どうなったのかを読み取る。 ・as~, because ofの形に慣れる。
1	Program 9 A Gateway to Japan	<ul style="list-style-type: none"> ・何かされたことについて言えるようになる。 ・現在完了を用いて、すでにしてしまったことや、今ちょうどやり終えたことを言えるようにする。 ・現在完了を用いて、何かをし終えたかどうかをたずねたり、答えたりできるようにする。
2	Program 10 A Hope for Lasting Peace	<ul style="list-style-type: none"> ・現在完了を用いて、これまでずっと続いていることについて言えるようにする。 ・現在完了を用いて、これまで経験したことがあるかどうか言えるようにする。 ・日本の名所や史跡などについて紹介しよう。
3	Program 11 Visas of Hope	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を用いて、杉原千畝に関する英文を読んで、概要や要点を捉えることができるようにする。